令和7年度　埼玉県高等学校 PTA 連合会
家庭教育専門委員会研修会　参加報告

開催日：令和 7 年 11 月 5 日(水)13:00～16:30
会　場：埼玉会館　小ホール
主　催：埼玉県高等学校 PTA 連合会
参加者：岡・村岸・稲田・奥村・三宅

【講演会】

講　師：クイーンフィールド株式会社　大野　亜紀　様

演　題：『伝えるから届くへ』

～様々なシーンに活かせる、こころに届く声と意識の
育て方～

①目指すは「声は人」～声が人に与える印象と信頼性
②「相手に伝わる声」と「気」の育て方
③「簡潔さ」こそ、伝わる声の証
④相手へ届くことばは、「『おもいやり』で決まる！」

フリーアナウンサーとしてのご経験から、自分の声を「伝えるから届く」声にするための意識の育て方について講演いただいた。
自分の声に意識をむけて、相手の心に届く声を育てていきたいと思える機会になった。

【実践発表】

●東部支部　埼玉県立草加東高等学校
【家庭教育と PTA】
子どもたちの成長を支える環境作りには、学校と家庭の協力体制が必要である。
その体制を強化していくために、情報交換の場を設定するなどの提案があった。

●西部支部　埼玉県立川越高等学校
【先生方と手を携えて子どもたちの応援団に】
保護者は学校教育への関心がとても高い。
PT 会の役割は、子どもたちの様子を知る情報源となり、保護者同士の交流の場を提供することである。
（※ PT 会=PTA 組織）

●南部支部　埼玉県立常盤高等学校
【学校応援団としての PTA】
コロナ禍を機に PTA 活動を見直し、PTA を「学校応援団」として位置づけて活動している。

●北部支部　埼玉県立鴻巣女子高等学校
【鴻巣女子高校における家庭教育と PTA の取組について】
家庭と学校で求められる教育が異なるので、相互の協力が必要である。
地域社会との連携も大切である。

【講評】

埼玉県教育局教育総務部生涯学習推進課　指導主事　野口　和嵩　様

●埼玉県立草加東高等学校
生徒と保護者に行ったアンケート結果において、両者の認識に差があったことは興味深いものであった。

●埼玉県立川越高等学校
保護者のニーズに応えた取り組みが、PT 会の活動で行われている。

●埼玉県立常盤高等学校
PTA と学校が手をとりあって、新しい PTA の形を作り上げている。

●埼玉県立鴻巣女子高等学校
家庭へのアンケート結果から、家庭での教育が社会に出る準備の場を担っていることを感じた。

●PTA
一部の人へ負担がかかる組織ではなく「できる人が　できる時に　できるだけ」。

【所感】

社会情勢の変化とともに PTA の活動は変化しているが、子どもたちの教育環境の充実のためには、学校と家庭の協力体制は必要であると感じられた。
PTA の組織をスリム化し、自主的な気持ちで PTA へ参加することで、以前より学校への帰属意識が高まったという報告は興味深かった。

（文責　本部）